

## 日経配当指数、6月末は83円31銭

日本経済新聞社が公表する日経平均・配当指数（2010年）の値は、6月30日で83円31銭になった。日経平均株価の構成銘柄数の9割近くを占める3月決算会社が株主総会を終え2010年3月期末の配当額が確定、指数に反映された。昨年6月末の日経配当指数（2009年）の水準（82円79銭）と比べるとほぼ横ばいで、主要企業が前3月期末には配当の支払いに引き続き慎重だったことを示している。

日本経済新聞社の集計によると、2011年3月期の上場企業の配当総額は前期比11%増え、3年ぶりに増加に転じる見通し。日経配当指数は暦年ベースの集計のため、2010年4月～9月期の配当（中間配当）は今秋に2010年の指数に反映されるが、11年3月期末の配当は来年6月の株主総会後に、2011年の指数に加わることになる。

6月末時点の日経配当指数の値を2004年以降の実績についてみると、配当値が最も大きかったのは、日経配当指数（2008年）の109円90銭。同指数の最終値は219円73銭だった。各年の配当指数を比較すると6月末の指数値は、翌年4月初めに確定する最終値のほぼ半分に達している。